

# 令和4年度 全国学力学習状況調査〈数学〉

生野中学校

## 1 正答率の高かった問題

- ・ 確率や連立方程式の基礎的な問題は大多数の生徒が正答している。
- ・ 合同条件を答える問題では70%程度が正解しており、知識として定着している。
- ・ 計算問題や立式も正答率は70%程度ある。

## 2 正答率の低かった問題

- ・ グラフと関数を活用して、座標を求める問題は正答率が低く、無回答は少ないが、想定外の誤答が多い。
- ・ 数と式において、結論が成り立つための前提を考え説明する問題では、正答率が低く、無回答が多い。

## 3 全体を通して

数学的な力は、全国・兵庫平均よりも大きく上回っている生徒もいるが、大きく下回っている生徒も多く、学級内での定着度の差が大きい。特に説明を求められる問題や知識を問われる問題に弱い。

授業において、答えだけでなく、なぜそのような答えにたどり着くのかを話し合う機会を増やしたい。また、無回答である生徒が多く、知識を定着するという段階まで学習できていないことが考えられる。しかし、問題から数値やグラフなどを正確に読み取る問題については正答率が高く、無回答も少ない傾向にある

全体では、ほとんどの問題は40～70%程度の正答率があり、大多数の生徒が概ね理解できていると考えられる。数学は苦手ではあるが、意欲はあり、わかりたいと思っている。

1，2年次に学習した内容を、振り返る機会を増やしていきたい。その中で、3年次での学習につながりを持たせ、さらなる学習内容の定着を図っていきたい。